

スペシャル対談

慶応義塾大学 政策・メディア研究科
特別招聘教授

夏野 剛さん



なつの・たけし 65年生まれ。早大政経卒、米ペンシルベニア大学経営大学院ウォートンスクール卒(経営学修士)。08年にNTTドコモ退職後、慶大教授に就任。現在はKADOKAWA・DOWANGOをはじめ、多くの企業の取締役を務めている。

夏野 今でも(ソ)くなって買ってもらいまの原体験にあります。二(ソフトバンクが発売した「E-RS7」の「アイ」機種になってからコミコ「ペッパー」はスマホに近いですね。アプリケ

夏野 今でも(ソ)くなって買ってもらいまの原体験にあります。二(ソフトバンクが発売した「E-RS7」の「アイ」機種になってからコミコ「ペッパー」はスマホに近いですね。アプリケ

夏野 この2、3年でロボット向けのコーディング言語がすごく整ってきて、スマートフォンが普及して部品も安くなった。以前なら大手のロボットメーカーしかできなかったことが、近藤さんのようにロボットに興味のある人なら、開発や作り込みができるのだから、ほんとに面白い時代。まだ圧倒的にハードウェアの技術者が多いけど、ソフトウェアがもつと大事になってくる。ペンギン型ロボットも感覚とかをソフトでトライ&エラーをしたんですよ。近藤 まだハードでやっていきます。高校時代はずっとハードの勉強をしていたので、ソフトもや

ロボット社会が身近な現実として見えてきた。感情を持ち「人と暮らすロボット」は、社会にどんなインパクトを与えるのか。高校時代にペンギン型ロボットを開発、現役女子大生のロボットクリエイターとして活躍する近藤那央さん。世界初の携帯電話インターネット接続サービス「iモード」の生みの親で幅広いフィールドでイノベーションを仕掛ける夏野剛さん。「イノベーションが生み出すロボット社会」をテーマに対談した。

若い感性が新しいロボット社会を生む



対談は夏野さんが取締役を務めるドワンゴ本社(東京・銀座)で行われた。初対面ながら慶応の教授、学生というギャップが話題に及んだ

夏野 ルンパを「ちゃん」付けて呼んでいる家庭は多いよね。しかも壁にパンパンぶつかって覚えていくところとか動物

まず世に出して反応を

夏野 私、今でも(ソ)くなって買ってもらいまの原体験にあります。二(ソフトバンクが発売した「E-RS7」の「アイ」機種になってからコミコ「ペッパー」はスマホに近いですね。アプリケ

かわいさが一番大切

夏野 私、今でも(ソ)くなって買ってもらいまの原体験にあります。二(ソフトバンクが発売した「E-RS7」の「アイ」機種になってからコミコ「ペッパー」はスマホに近いですね。アプリケ

夏野 私、今でも(ソ)くなって買ってもらいまの原体験にあります。二(ソフトバンクが発売した「E-RS7」の「アイ」機種になってからコミコ「ペッパー」はスマホに近いですね。アプリケ

共存への課題は哲学的

近藤 ロボットを作り出すとき、ベンギンの羽ばたきの速さにびっくりして、誰もそれを実現していないからやりたいて思うんです。でもやっぱり、周りの人から「かわい」とか「かわいい」とか感情の部分が多く、そこが面白くなってきつた。結局、ロボットは一つひとつの技術がすごいんです。経済学は数えきれない話に尽きないし、ロボットのコミュニケーションで国語が苦手とか言われてる。だから近藤さんのような経歴が生きてくる。

ロボットクリエイター
近藤 那央さん



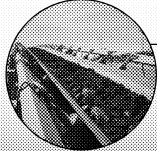
こんどう・なお 95年生まれの19歳。東京工業大学付属科学技術高校(東工大付属高校)機械科の課題研究で、生物の動きを精巧に再現するチーム工房「トライボッツ」を結成。リーダーとしてペンギン型ロボットを開発する。小惑星探査機「はやぶさ」の帰還を見て感動。宇宙工学をやりたくて、機械科のシステムデザインロボット分野に進む。昨年、慶応義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)環境情報学部に入学。大学では「人と暮らす」ロボットの研究に携わると同時に、グライダーの部活動に明け暮れる。新世代の女の子を発掘するオーディション「ミスiD2015」に輝く。

ロボットと人間の関わりをずっと追求してきた。最近モAI(人工知能)系とアバター(分身)系の映画が増えている。近藤 私はSFより(ディズニ映画の)『ベイマックス』が好きです。あれが正しいのは動きが自然なところ。そこで大切なのはメカでいう「遊び」。ペンギンロボットもサーボではなく、一つのモーターからリンクを分けています。翼の部分は何も入れず、金属板のはめ合わせで変えていっています。人間が生き物のエーゼントだと認識してくれることが、ロボットがかわいいと思ってもらえる一番大切なことだと思っています。(米アイロボットが販売する掃除ロボットの「ペッパー」も機械じやないし認識されるから、かわいと感じるのは、現実的には難易度が低いものになってしまふ可能性が高い。(近藤さんは)どんなことを特区でやりたいの?

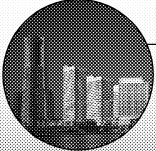
日本力ー未踏に挑むー

多彩なゴム・テクノロジーで「運ぶ」、「くっつける」、「やわらげる」。

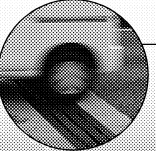
長年にわたって培った技術を応用して、様々な活躍する製品があります。あまり目立つものではないけれど、世界のプロに認められるそれら製品は、地道に、しっかりと支え続けます。



過酷な環境でも、確実に運搬。
数々の実績を誇る「コンベヤベルト」はあらゆるニーズに応え、世界各地での「運ぶ」を支えています。



しっかり接着して、きっち防水。
防水のために活躍する「シーリング材」は建築物のあらゆるニーズに適材適所に対応し、「くっつける」技術で支えています。



橋桁に生じる動きを緩和。
道路橋用伸縮装置「ハイウェイジョイント」は、橋桁間や橋桁基部の止水だけでなく、橋桁の伸縮や地震時などの動きを「やわらげ」ます。

